



Timor-Leste Eskinder Debebe / UN Photo

大きな戦争や重大な人権侵害、そしてかつてないほど破壊的なテロ攻撃の脅威に苦しむこの世界で、政治的な暴力が増え続けていると多くの人々が信じていても驚くに当たりません。

しかし、この「世界銀行アトラス 人間の安全保障はどう守られているか」でこれから明らかになるとおり、このような一般的な通念は間違っているのです。2005年の武力紛争は、それより15年ほどさかのぼった冷戦終結の頃と比べると40%も少なくなりました。多数の犠牲者がでた紛争（報告戦死者数が年間1000人以上の紛争）の減少率はさらに大きく、同期間に80%も少なくなりました。

人々が母国から逃げ出す主な原因となっていた政治的暴力が減少したことを反映して、難民数も冷戦後減ってきています。また、信頼できる確かな情報はほとんどないのですが、政府軍や反政府軍で兵士として働く子供たちの数も減ってきているようです。

戦争は「開発の逆行」であると表現されてきましたが、これには適切な点があります。戦争のもたらすものは死、傷害、疾病や栄養失調の増加、社会基盤や保健医療サービスの大規模な破壊、巨額の資金逃避、そして投資の損失なのです。ポール・コリアー氏*によると標準的な内戦の費用は500億ドル前後とみられます。

戦争によって貧困が深刻化するという事実は当然とも考えられますが、実は貧困も戦争の原因の1つである可能性を示す確かな証拠もあるのです。一人当たりの所得が低い国は、国力が弱いということで、そのような国では貧しい若者たちが仕事も無く、多くは絶望の淵におり、反政府運動に身を投ずることにもなるでしょう。

本書に含まれる地図や図表をみると、冷戦後の戦争の動向が驚くほど変化していることが明らかになります。また武力紛争と経済的・政治的開発との関連が浮き彫りになります。各図版にはその問題に関する簡潔な説明が添えられています。

コフィ・アナン前国連事務総長はかつて「安全保障なくして開発なし」と述べました。そして開発がなければ安全も確保できないのです。「世界銀行アトラス 人間の安全保障はどう守られているか」は、強い影響力のある「人間の安全保障報告書」を執筆したチームが書き下ろしました。この本はその理由を理解する一助となるでしょう。

* 訳注：世界銀行を経てオクスフォード大学教授。『最底辺の10億人 最も貧しい国々のために本当になすべきことは何か？』（日経BP社、2008）の著者。